

＜令和6年度日本水産学会春季大会 水産学若手の会シンポジウム＞

## 20代の水産研究者が考える〇〇 ～これまでの経験・価値観・研究の観点から～

日時・場所：2024年3月27日（水）13：00～16：30 第7会場

企画責任者：米澤遼（東京大学）・立山和樹（マルハニチロ）・相馬智史（水産研究・教育機構）・加藤豪司（東京海洋大学）

- 13:00~13:05 開会挨拶・趣旨説明 企画責任者：米澤 遼
- 13:05~13:35 魚類血液凝固系の魅力 ～ネコザメ新奇血液凝固カスケード～  
松井 信太郎（九州大学 農学研究院 水族生化学分野 特別研究員 PD）
- 13:35~14:05 ウミウシに魅せられてから博士進学まで ～大学院生としてどう生き残るか～  
溝端秀彬（東京大学大学院 農学生命科学研究科 特別研究員 DC1 内定）
- 14:05~14:35 三次元潜水行動解析からみた定着氷下のアデリーペンギンの採餌戦略  
渡邊日向（国立極地研究所）
- 14:35~14:50 休憩
- 14:50~15:20 学部卒でも大丈夫！ ～水産機構に就職してから博士号をとるまで～  
半沢祐大（水産研究・教育機構水産資源研究所 社会・生態系システム部）
- 15:20~15:50 外食企業における水産研究  
鈴木 凜太郎（株式会社ゼンショーホールディングス 中央技術研究所）
- 15:50~16:20 パネルディスカッション
- 16:20~16:30 閉会挨拶 水産学若手の会委員長：加藤豪司

### 企画趣旨

水産分野は水圏環境に生息するあらゆる動植物を対象とするため、研究手法やその成果の活用方法は多岐に渡る。我が国では、企業・大学・公設研究所などあらゆる機関においてユニークな水産研究が行われており、海洋大国「日本」を支えている。しかし、各機関に所属する若手研究者同士の相互理解や議論の場は限定的であり、水産研究の分野に進む20代も決して多くはないのが現状だ。そこで、本シンポジウムでは異なる機関の若手研究者同士を繋げ、より多角的に水産研究を議論する場を設けることを目的とする。本シンポジウムは、未来の水産業・水産研究を担う学生に、各研究機関で活躍している若手研究者の経験、価値観、研究やその思いを知ってもらう非常に有意義な機会にもなると考える。本シンポジウムを、若手水産研究者の有機的な異分野融合と、次世代の水産研究者の種を育てる場としたい。